資料

第2回

札幌市廃棄物減量等推進審議会
2R部会資料

令和8年（2026年）11月6日（金）17:00

INDEX 1

1　報告事項

1　報告事項

指定ごみ袋の臨時的対応期間中のごみ排出量 ―――― P.2
市民参加の取組状況（オープンハウス） ―――― P.3
ごみ減量に関する事業者アンケート ―――― P.5

2　次期計画における取組の方向性

3　今後の予定

指定ごみ袋の臨時的対応（6/15～9/30）期間中のごみ排出量

燃やせるごみ

（単位：トン）

	4/1～6/12	6/15～30	7月	8月	9月	期間合計※1	10/1～15（速報値）
R８年度	45,703	11,929	21,113	21,563	23,028	77,632	9,298
前年同期比※2	▲1.4%	+4.1%	+7.3%	+6.4%	+18.8%	+9.7%	▲4.7%
R７年度	46,365	11,460	19,685	20,262	19,378	70,784	9,758

燃やせないごみ

（単位：トン）

	4/1～6/12	6/15～30	7月	8月	9月	期間合計※1	10/1～15（速報値）
R８年度	2,587	672	1,418	1,284	1,974	5,348	415
前年同期比※2	▲6.2%	+19.2%	+53.8%	+55.0%	+93.2%	+60.3%	▲28.3%
R７年度	2,756	564	922	828	1,022	3,337	579

参考

（単位：トン）

	びん・缶・ペットボトル		容器包装プラスチック		雑がみ		枝・葉・草	
	4/1～6/12	6/15～9/30	4/1～6/12	6/15～9/30	4/1～6/12	6/15～9/30	5/1～6/12	6/15～9/30
R８年度	5,997	9,125	5,871	8,133	3,678	4,805	3,166	8,463
前年同期比※2	▲3.2%	▲3.9%	▲2.1%	▲4.6%	▲1.0%	▲5.4%	+1.0%	+13.6%
R７年度	6,197	9,498	5,996	8,524	3,715	5,082	3,135	7,449

※1　臨時的対応期間の合計　　※2　同一曜日の比較であり、Ｒ８とＲ７で日付は異なる（例：R8は6/15～6/30で、R7は6/16～7/1）

1 報告事項

市民参加の取組状況（オープンハウス）

■ 日時

2026年（令和8年）9月14日（月）～15日（火）

■ 場所

チ・カ・ホ北3条交差点広場

■ イベント名

３Ｒでごみ減量～いき（域）いき（活き）循環in北海道～

■ 方法

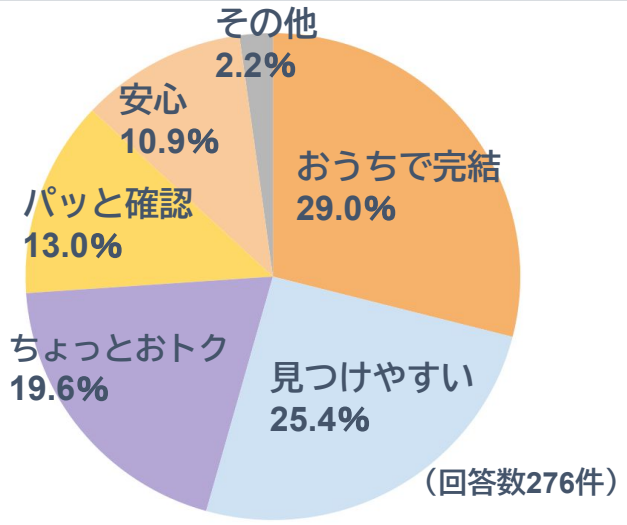
①札幌市のごみ減量・資源循環について出展
②リユースと資源循環について、パネル各１枚を展示し質問
③シールを貼って回答を収集





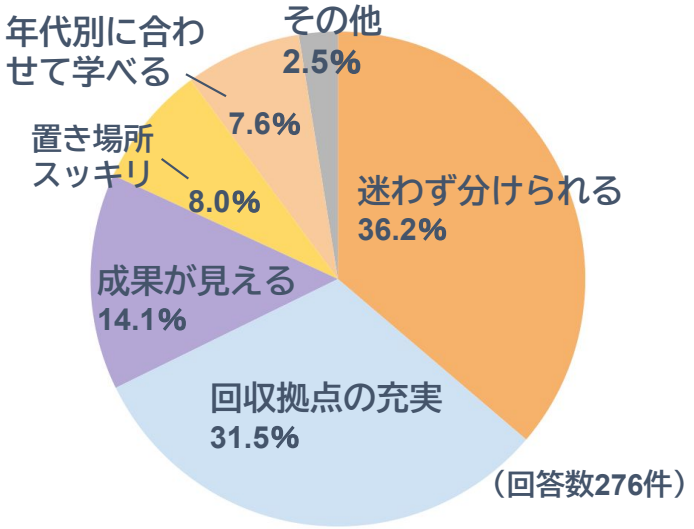
市民参加の取組状況（オープンハウス）

Q1 「使わなくなったもの」のリユース（売る・譲る）をさらに普及させるにはどんな仕組みが必要だと思いますか？



おうちで完結	自宅まで回収・買取に来てくれる
見つけやすい	売れる場所や譲れる場所を地図などで簡単に探せる
ちょっとおトク	持ち込むだけでポイントやクーポンなどの特典がもらえる
パッと確認	買取・引き取りの可否や金額が、事前にアプリ等ですぐにわかる
安心	個人情報を知られずに安心して利用できる
その他	自由回答

Q2 「分別による資源循環・リサイクル」をさらに進めるには、どんな後押しが必要だと思いますか？



迷わず分けられる	「これって何ごみ？」と迷ったとき、スマホ等ですぐ確認できる
回収拠点の充実	スーパーや公共施設など、いつでも持ち込める回収拠点がある
成果が見える	分別がどう役立ったか(CO2削減や再商品化など)を実感できる
置き場所スッキリ	かさばる資源ごみを省スペースでためておく工夫がわかる
年代別に合わせて学べる	子供から高齢者まで、年代に合った学びや情報が得られる
その他	自由回答

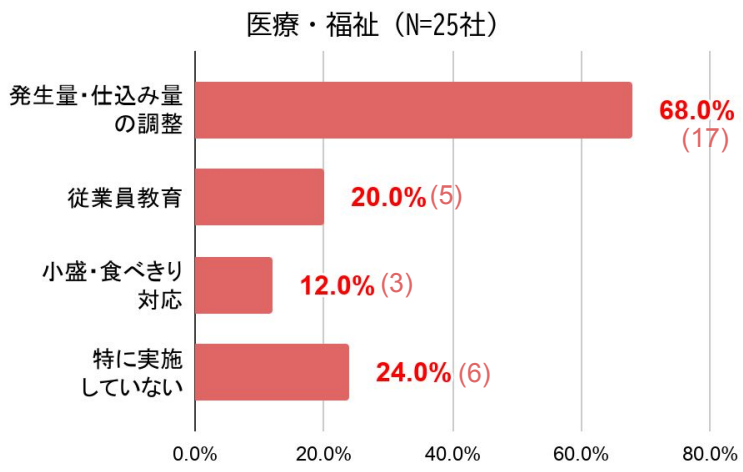
ごみ減量に関する事業者アンケート（食品ロス削減）

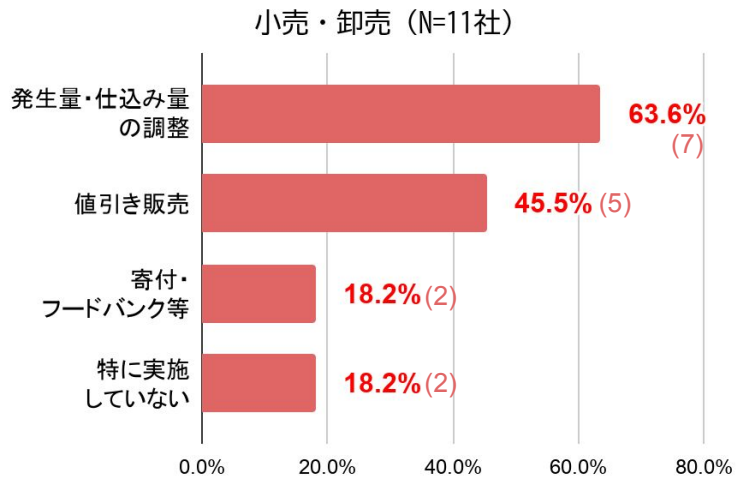
【事業系ごみ排出実態及びリサイクル等の取組状況の把握に関するアンケート結果（速報値）より（一部抜粋）】
・実施時期：令和８年９月、送付先：札幌市内事業者　1,900業者、回答数：195件、設問数：27問（内以下２問を抜粋）

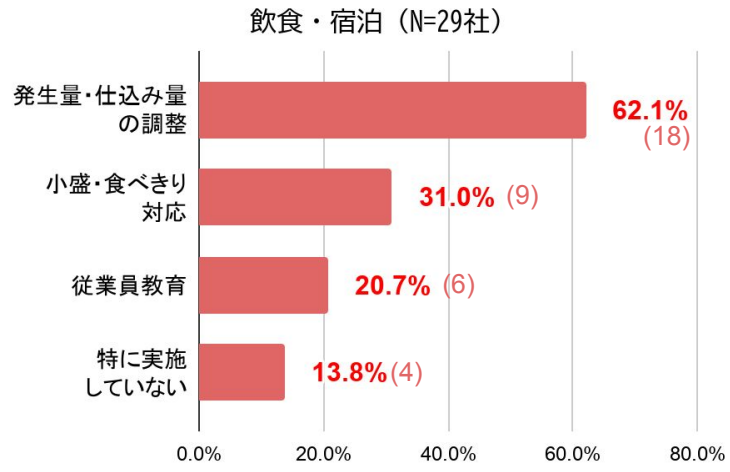
Q23 事業として食品を扱っており生ごみの排出がある方に伺います。食品ロス削減のために実施している取組を選んでください。（複数回答可） 単位:（件数）

※回答は上位３項目を抜粋　（各業種、各選択肢ごとの人数区分については、データ集p.11-6を参照）

※建設・設備・工事、オフィス・サービス、製造・加工については、回答件数が少ないため、記載を省略







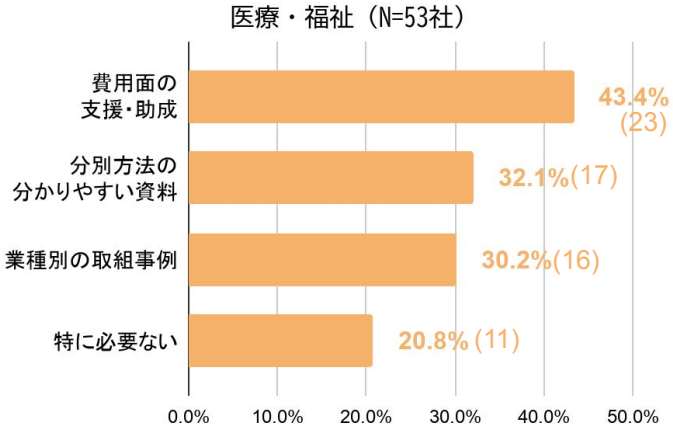
ごみ減量に関する事業者アンケート（必要な支援）

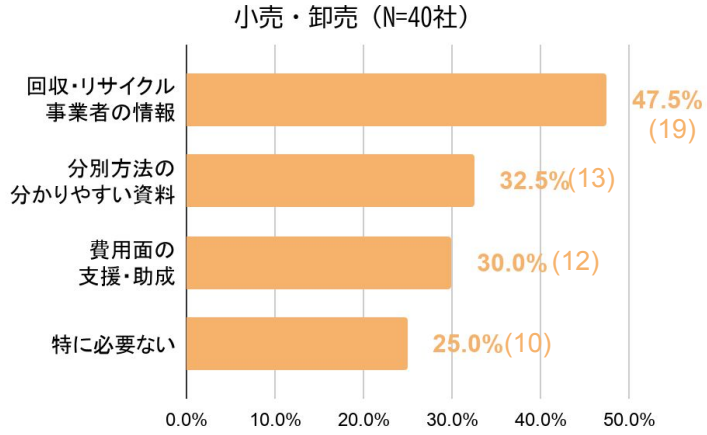
Q26 どのような支援があれば、ごみ減量、リサイクルに取り組みやすくなると思いますか。（複数回答可）単位:（件数）

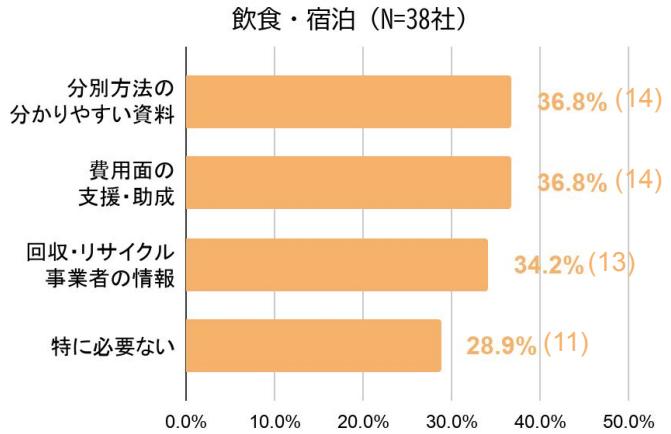
※回答は上位３項目を抜粋 （各業種、各選択肢ごとの人数区分については、データ集p.11-7を参照）

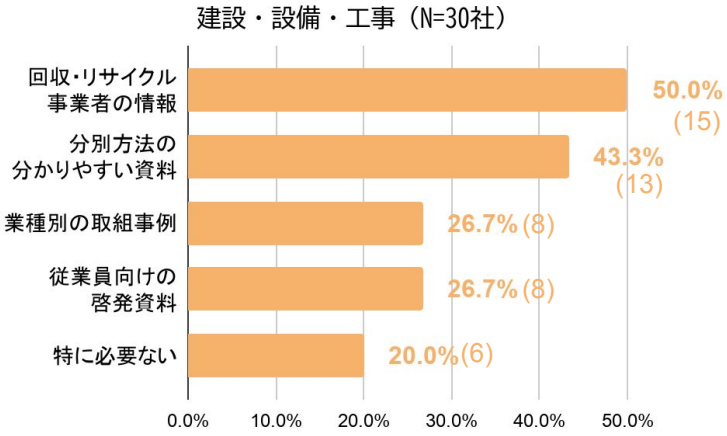
全業種の上位３項目

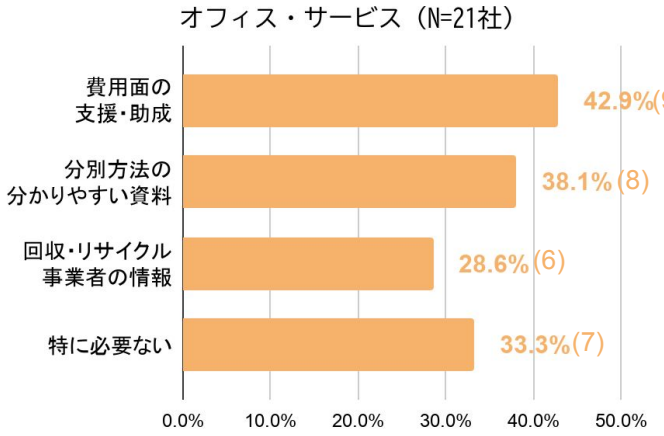
①回収・リサイクル事業者の情報　36.4%　　②分別方法の分かりやすい資料　35.9%　　③費用面の支援・助成　34.4%

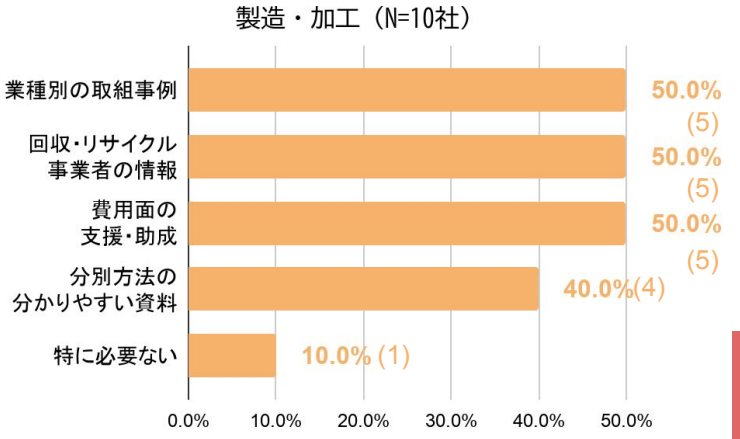












INDEX

2　次期計画における取組の方向性

1　報告事項

2　次期計画における取組の方向性　P.8

3　今後の予定

次期計画における取組の方向性

今までの審議会や部会でご議論いただいた内容を踏まえ、次期計画における取組の方向性を以下の６項目に分類した。

01

生ごみの減量
（食品ロス・調理くず・堆肥化）

02

大型ごみの減量

03

- **プラスチックごみの減量**
- **事業ごみの減量**

04

民間事業者による
リユース促進

05

拠点回収の充実

06

環境教育・学習の充実、
普及啓発

市民・企業・行政の連携

1　生ごみの減量（1/2）（食品ロス）

【参照：第1回部会資料 P.14～18・22～23】

審議会・部会における主な意見

【飲食店での持ち帰り】
- ホテルなどで行われる大規模な宴会では、持ち帰りを前提としたメニューを導入するなどの仕組みづくりが必要
- 量が多い店舗であっても持ち帰りサービスがあれば安心して利用できるのではないか

【お店の情報発信と事業者との協力】
- 若者が利用するSNS（Instagram等）や飲食店検索サイトで「持ち帰り可能」「少量オーダー・ミニサイズ可」といった情報を掲載できるようにすると良い
- 食品ロス削減の普及啓発として、特に力を入れている店舗の紹介を行うと良い
- 前向きに協力が得られるチェーン店等と連携し、一緒に取り組んではどうか

【フードドライブ】
- 食品ロス削減全体としての効果を高めるため、これまでの食品ロス削減の取組とフードドライブを組み合わせて展開することが有効（資源化部会の意見）
- 保管場所・人手不足の解消、受入先（フードバンク等）の増加と、ニーズに応じたサプライチェーンの確立が必要

次期計画の取組の方向性

【食品ロス削減の推進】

≪外食・宴会等における食べきりと持ち帰りの推進≫
- 事業者と連携して、外食・宴会時の大量の食品が消費される場面における小盛メニューや持ち帰り容器等、食べきりと持ち帰りを推進する仕組みづくりを進める必要がある
- 若者向けSNSや飲食店検索サイトで「小盛・持ち帰り可」の表示促進や、波及効果の高いチェーン店との連携や優良店舗の紹介などを通じて取組を広げるべき

【フードドライブの充実】

- 食品ロスの削減の効果を高めるには、フードドライブと多様な削減の取組を組み合わせて、進めていくべき

1　生ごみの減量（2/2）（調理くず・堆肥化 ）

【参照：第1回部会資料 P.14～21】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【調理くず】 ● シェフ監修による食品ロス削減アイデアランチ会のように、異分野に廃棄物削減の視点を溶け込ませた企画を展開することで、調理くずの削減をはじめとする廃棄物問題について啓発すると良い	【調理くず削減の推進】 ● ごみ減量という単体の切り口にとどまらず、食文化やライフスタイルといった異分野と連動・融合させるなど、幅広い市民層に受け入れられやすい多様な手法を検討する必要がある
【生ごみ堆肥化】 ● 集合住宅居住者や若年層への生ごみ堆肥化の普及が今後の課題である中、住居環境等の要因から、電動生ごみ処理機等の室内で取り組めるごみ減量・堆肥化手法へのニーズがあるのではないか ● 庭や畑がない家庭向けに、町内会が管理する花壇へ堆肥を寄贈することできれいな花が咲くなど、貢献成果を実感できる流れづくりが必要 ● 「堆肥の使い道がないから拠点で回収する」という消極的な発信ではなく、「窓際でのハーブ栽培」や「農業・一次産業への貢献」という前向きな理由で生ごみ堆肥化・回収事業を打ち出すと良い	【生ごみ堆肥化の推進】 ● 集合住宅居住者や若年層の参画を促すため、電動生ごみ処理機等、室内で衛生的かつ手軽に取り組める減量・堆肥化手法の普及を進めるべき ● 庭や畑を持たない家庭でも無理なく続けられるような仕組み構築や、環境美化等への貢献といった前向きな意義を効果的に発信し、市民の主体的な参加へとつなげていくべき

2 大型ごみの減量

【参照：第1回部会資料 P.24】

審議会・部会における主な意見

【大型ごみ】

- 札幌市のごみ処理手数料（最低料金200円～）は、政令市の中で割安な方であり、リユースに回す手間と比べて安価であることが排出量に影響しているのではないか
- 大型ごみに出すくらいなら、手間でもリユースを選んでもらえるような料金設定も考えられるのではないか
- 一方、料金を上げすぎると、不法投棄が増加したり、家にごみが溜まって災害時等にまとめて出てきたりするため、一定のバランスを考慮することが必要
- 市に大型ごみの問合せがあった際、廃棄前にリユース事業者やリユース関連のサイトへ案内する運用を徹底すべき

次期計画の取組の方向性

【大型ごみの減量とリユースの促進】

- 減量・リユースの動機づけとなるような適正な手数料水準のあり方を検討すべき
- 大型ごみの問合せや申込に際して、廃棄の前にリユースという選択肢を確認させる運用をすべき

3－1　プラスチックごみの減量

【参照：第1回部会資料 P.11～17】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【プラスチックごみ】 ● マイバッグ持参を推進しているが、マイバッグ持参率は現状（85%前後）が社会的に十分に定着した水準という認識 ● 「日常的にレジ袋を購入する人」は、購入したレジ袋をごみ袋として利用するつもりの人ではないか ● レジ袋がごみ袋として再利用されている実態を踏まえると、指定ごみ袋をレジ袋として活用する取組（シマエナガデザインの指定ごみ袋等）は有効	【プラスチックごみの減量の推進】 ● マイバッグの推進に加え、レジ袋がごみ袋として再利用されている実態に合わせ、選択肢として指定ごみ袋をレジ袋等に活用する仕組みの普及・定着を進める必要がある

3－2　事業ごみの減量

【参照：第1回部会資料 P.22･23】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【事業ごみ】 ● 他都市事例のように、事業者が取り組んでいるごみの減量・資源化に関する優良事例を紹介するなど、取組を見える化していくと良い ● 経済的メリットだけでなく、取組企業が社会的に評価され、企業イメージ向上につながる仕組みを設計することが有効 ● 企業が社会貢献として取り組むことは、ステークホルダーへの説明にもなる	【事業ごみの減量の推進】 ● ごみの減量や資源化に積極的に取り組む事業者の優良事例を市が広く紹介・発信し、取組を「見える化」することで、他事業者の参考となる好循環を創出する必要がある ● ごみ減量が企業イメージの向上につながるような仕組みなどにより、企業の取組意欲向上を図る必要がある

4　民間事業者によるリユース促進

【参照：第1回部会資料 P.25～29】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【リユース促進】 ● 事業者・団体と市が連携協定を結び、リユースの取組を行っている事業者を紹介するのが良いのではないか ● 市と事業者が連携することが、市民がリユース事業者を選択する際の「安心」につながる ● 売れなかったものの処分先や海外への輸出など、トレーサビリティまでフォローすることも必要 ● リユースを普及させるには売れる場所や譲れる場所を地図などで簡単に探せる仕組みづくりが必要（オープンハウスの意見）	【民間事業者によるリユース促進】 ● 市民が安心してリユースを選択できるよう、市が事業者や団体等と連携し、優良な事業者や売却・譲渡が可能な拠点を地図等で簡単に探せる仕組みを構築すべき ● （再掲）大型ごみの問合せや申込に際して、廃棄の前にリユースという選択肢を確認させる運用をすべき
【シェアリング】 ● 次期計画にシェアリングについて盛り込む必要がある ● シェアリングサービスを展開する民間事業者との連携や情報交換を積極的に進めるべき	【シェアリングサービスの利用促進】 ● 民間企業が提供するシェアリングサービスなどの取組を市が情報発信するなど、利用促進を図るべき

5 拠点回収の充実

【参照：第1回部会資料 P.30～34】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【回収拠点の拡充】 ● 日常的に立ち寄る場所に回収ボックスが設置されていると利用しやすい（オープンハウスの意見） ● 回収拠点の拡充には市が場所を提供し、民間事業者が回収ボックスを置くという方法もあるのではないか	**【回収拠点の拡充】** ● 市民が日常的に立ち寄る生活動線上で手軽に資源物を出せるよう回収拠点を拡充すべき ● 拠点拡充に向けては、市が場所を提供し民間事業者が回収ボックスを設置するなど、柔軟に進めていく必要がある
【拠点回収の利用促進】 ● 資源物を拠点回収に出そうという市民側の意識醸成も大事 ● 回収された資源物が、どんな製品に変わるのか具体的に伝えることが、市民のリサイクルへの動機付けになる ● 回収拠点の場所や回収品目を、Web・アプリ・回収マップなどで簡単に調べられると回収拠点が利用しやすい（オープンハウスの意見） ● 回収した衣類のうち、商品にならない分も工業用ウエスにリサイクルしており、回収量の90%以上を循環利用できているため、市で周知してほしい ● 衣類回収に取り組み始めたところ、反響が多く、宣伝すればするだけ回収量が増えると実感している ● 民間企業による周知は非常に大変で、企業で行っている資源回収を知らない方がたくさんいる	**【拠点回収の利用促進】** ● 資源物が何に生まれ変わるのかという具体的な成果を発信し、市民の回収拠点の利用意欲を高める必要がある ● 市が民間の回収拠点を含めた回収拠点の情報（場所・品目等）を地図等で簡単に探せる仕組みを構築すべき **【衣類回収の拡大と定着】** ● 近年、民間事業者による衣類回収の取組が広がっている。市としてもこれらの事業者と連携し、民間回収ルートを市民へ周知することで、利用の拡大と定着を図るべき

6 環境教育・学習の充実、普及啓発

【参照：第1回部会資料 P.12・35～36】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【環境教育・学習】 ● 施設見学会を通して意識醸成が図られるため、社会科見学を含めた子どものうちからの環境教育・学習は重要 ● 子どものうちだけではなく、ライフステージに応じて環境学習を継続して実施できる仕組みづくりが重要 ● 座学だけではなく実体験・対話・ワークショップや世代間交流の場として環境教育・学習を展開していくとよい ● 町内会で施設見学をしたことをきっかけに地域の分別意識が高まった例もあった	【各世代に応じた環境教育の推進】 ● 子どもの頃からの学習を起点とし、全世代がライフステージに合わせて継続的に学べる環境教育・学習の仕組みを構築すべき ● 環境教育・学習において、施設見学会やワークショップなど、市民が実体験や対話を通じて環境意識を深められるようにすることが効果的
【イベント・普及啓発】 ● イベントの効果測定にこだわりすぎないほうが良い ● 強化月間などにリソースを集中し、毎年定番化する息の長い取組を行うことが重要 ● 従来からの取組は、やっている人はやっている、知らない人は知らないという状態になっている ● 世の中のニーズを捉えてタイミングよくアピールし、年1回の集中した時期に周知をしていくことが必要 ● 夜の円山動物園のように24時間稼働の清掃工場のナイトツアーなど、斬新なアイデアで様々な機会があるとよい ● 若者はSNS（InstagramやTikTok）で流れている物を見るため、SNSの活用による普及啓発が効果的（資源化部会の意見）	【取組の定番化とアプローチの継続】 ● 単発的なイベントの効果測定にとらわれず、世の中のニーズを捉えた強化月間等にリソースを集中し、毎年恒例となる息の長い周知・啓発活動を展開すべき ● 従来の啓発では届かない層へアプローチできる企画の実施や、若年層の日常ツールであるSNS（Instagram等）を活用した効果的な発信を行うべき

INDEX 3

3　今後の予定

1　報告事項

2　次期計画における取組の方向性

3　今後の予定　——————— P.17

3　今後の予定

令和8年度（2026年度）

令和9年度（2027年度）

現状把握・課題抽出

- 導入
  - 5月21日　9:30～：第1回審議会
- 現状
  - 7月 7日　9:30～：第2回審議会
- 重点テーマ
  - 8月 5日　13:30～：第3回審議会

方向性検討

- 重点テーマを集中審議

２R部会		資源化部会	
9月 2日	13:30～：第1回部会	9月 2日	9:30～：第1回部会
11月 6日	17:00～：第2回部会	10月26日	13:15～：第2回部会
12月15日	**9:30～：第3回部会**	12月17日	9:30～：第3回部会

- 部会の報告
  次期計画の方向性
  - 1月15日　15:00～：第4回審議会
  - 3月18日　9:30～：第5回審議会

まとめ

- 答申の方向性
  答申の主な内容
  - 4月末～6月中旬　第6～7回審議会
  - 6月下旬～7月　起草委員会の開催
- 答申案
  - 8月頃　第8回審議会
- 計画案報告
  - 11月～12月　第9回審議会

「次期計画」策定